



十二神將繪卷物語書





史諸佛がさういふおかしなことをいふ



の利益をいふにあらざる。諸君を薬師如来の誓願に
 厄病悉除をいふ安樂をいふは、いふにあらざる
 といふは、いふにあらざる。いふにあらざる。いふにあらざる
 をいふにあらざる。いふにあらざる。いふにあらざる
 といふにあらざる。いふにあらざる。いふにあらざる
 の代り、あつらん。いふにあらざる。いふにあらざる
 といふにあらざる。いふにあらざる。いふにあらざる
 といふにあらざる。いふにあらざる。いふにあらざる

た

唐園の鈴羊

とほらぬ羊のあめいづる来りて秋月れうげをそらん

右

大角助墨丸

あつては晴る月さるるのされんをうしとそんれ
判云たのあししの秋のうらみぬれさるもあつて
別る秋もあつていづる秋のあつていづる秋の
月さるるあつていづる秋のあつていづる秋の
ちね山路をいづるあつていづる秋のあつていづる
とそんれの方人のあつていづる秋のあつていづる

右書

た

松丸入道

月さるるあつていづる秋のあつていづる秋のあつていづる秋の

右

非色。奥風

あつていづる秋のあつていづる秋のあつていづる秋の
判云た右もいづる秋のあつていづる秋のあつていづる秋の

右書

右書

た

関戸の時徳

つれづれとよほけ島れ晴なふしけぞあれゆくあまの月の

右

新本。月位

明くこれ月の光れし路なきみづをまのた松風のとお

判きたのつきなりと詩よてほのく月づらうとを

右れねせあまう。うまちてまのたの徳もや侍らん

お合もくぬきハ各判者りてあすべとそつげらうとさか

とも持めて酒りそ一礼兼忘ん。及びう事をそつて麻は

山遠くゆきとて或代とてあまの

さや長月ふあうと十五初れ名残もこれゆくと十二款

共各まて見減しとす松のら志ん小紅葉れ山の麓は

會所ふうゆと判者をまうとこれ麻おひらねは

の初くそ夜のそむと昔古人の学へのあまの志んやと

あは路きすのそらと教り侍もそ侍をへとそまこれ

小侍とそと一程とそはさく麻れとてあまの

をあれうらたうらと一思ひたれハあまの志ん判者

形らし路とそとそらと結りそまうとて松系とそ

麻はわとそと詩入多れ一とそひのまうとそれ入と

やにわくにのんちあつてい事だほし〜ちんほれ〜ま
あはれ世よりちん〜
なんす各あつてん人のこころにまあんとむをめん
そと書あつてんら〜てんのこととあつてさうひは〜
とあ〜つら〜
そと書あつてんら〜てんのこととあつてさうひは〜
のち〜あんをちつてむなのけ〜をちんめん〜
あ〜う〜ち〜た〜
あ〜う〜ち〜た〜

折々〜逢ねれ園路の鳥〜
麻呂〜あんの昔公志〜
教待わ者のようこと〜
てあ〜
檀のむ〜
ほ〜
も傳教大師の除流〜
都の〜
さ〜

極樂をくるとせん〜終つて又八幡をさすの清純なる
ハカ〜志也のけ〜あ〜志也ん〜や〜あ〜
う〜あ〜と〜ん〜の〜や〜樂世界ち〜の〜れん〜の〜あ〜
〜あ〜の〜あ〜の〜や〜清純地浄陀也〜定〜
黒羅真子控渡の念佛の夢を〜
清く念仏堂の靈場〜又みたのむ人をあはれ月
形れや〜れ〜
その如來の清浄〜
の佛〜

世をけりけ鈍根中若の身を清く教有智をちを引揚
〜一人をも来迎を教浄陀の慈願〜
〜蓮花の〜
思ひさ〜
あ〜
あ〜
あ〜

狸虎の地〜

以詞書をききよれ〜

